

東日本大災害被災者支援活動報告No.2

2011.10 ~ 2012.11

■10月

発災後の時間経過と共に被災者の支援ニーズも生活再建・自立への支援へと大きく変化してきた。

本会は、仮設住宅に移動した被災者と民間アパートや借家に避難している被災者への連携をとるためこれまでに作られた人脈を活用し、今後の活動の焦点を模索することとどまった。

沿岸部を担当していた登米支部と協働していた「みやぎ登米市災害ボランティアハブセンター」が10月以降自立して活動することになり、本会はそのサポート役に回ることとなった。

中央共同募金会配分金事業のまとめと事業報告書を作成し、中央共同募金会の事務局に報告した。

主な活動は、

- ①みやぎ登米市災害ボランティアハブセンターへのサポート
- ②中央共同募金会配分金事業のまとめと事業報告書
- ③JR社宅仮設住宅入居者支援
- ④山元町仮設住宅入居者支援
- ⑤仙台市若林区荒浜地域及び六郷地域被災農家との支援方法の話し合い



(石巻市の仮設住宅現地調査)



■11月

これまで形成してきた人脈を通じて、仮設住宅入居者支援の内容を探ってきた。支援物資の届いていないみなし仮設住宅（アパートや借家、JR社宅仮設住宅など）入居者に手持ちの支援物資を配布すると共に、生活自立のための精神的支え活動（被災者が開く喫茶サロンなど）の支援をした。また、仙台市沿岸部被災地の農家の自立支援についても当事者の意向と土地の現況を聞いた。

主な活動は、

- ①みやぎ登米市災害ボランティアハブセンターへのサポート
- ②JR社宅仮設住宅入居者支援（喫茶サロンなど）
- ③山元町仮設住宅入居者支援
- ④仙台市若林区荒浜地域及び六郷地域被災農家との支援方法の話し合い



(女川町の仮設住宅現地調査)



■12月

状況的には11月と同様であったが、山元町浅生原東田仮設住宅の入居者から依頼があり、同所で冬休み懇親会（クリスマス会）実施へ協力することとなった。同行事実施に当たり協賛企業が現れ、行事内容が華やかになると共に盛り上がった。協賛企業経営者があいさつし、被災者自ら企画・運営する事業に協力することをアピールすることが出来た。

本会では、被災者がすべてを頼るのではなく、自分たちで出来るものは自分たちで、不足する部分を支援者の協力を仰ぐ。そして、自立の意欲と自信を確認できるように支援していくこととしている。

主な活動は、

- ①みやぎ登米市災害ボランティアハブセンターへのサポート
- ②JR社宅仮設住宅支援（クリスマス会）
- ③山元町浅生原東田仮設住宅冬休み懇親会（クリスマス会）
- ④卸町仮設住宅被災者支援（クリスマス会）



(山元町の仮設住宅現地調査)



(山元町の東田仮設住宅クリスマス会)

■2012年1月

新年を迎えて、被災者の方々も多少落ち着いてきた。自立復興に向け、自分たちが進んで何かを始めなければという気持ちになっているところに「ハマグリ雛」の講習をしてくださるボランティアが来県し、手芸教室的な活動からはじめる動きがでてきた。

また、3.11の避難所開設を振り返って「出来たこと」「出来なかったこと」を、HUG 訓練を受けることによって地域と指定否定避難所になっている学校との連携の大切さも理解したところもあった。

主な活動は、

- ①山元町東田仮設支援打合せ
- ②エトワールバレー団支援
- ③若林区復興の輪会議に出席
- ④複数学区中学校指定避難所開設の打合せ
- ⑤J R南小泉・卸町5丁目仮設でハマグリ雛の手作り教室



ハマグリ雛の手作り教室

2月

「ハマグリ雛」に刺激を受け、山元町特産（津浪で壊滅的被害を受けた）のホッキ貝を活用して、将来は「一念発起」人形として販売できるように目標を持って製作に取り組み、そのための訓練を進めて経済的にも自立できるようなものにしていくこととなった。更に、そのほかの手芸品も販売することを目標にじゅんぴをすることになった。

主な活動は、

- ①複数学区中学校指定避難所開設（HUG訓練）
- ②復興支援に関して東北学院大講師と協議
- ③山元町東田・坂元仮設 ホッキ貝の雛人形作り
- ④事務所支援物資整理・廃棄作業
- ⑤山元町東田仮設 手芸教室



ホッキ貝の雛人形作り

3月

「ハマグリ雛」に端を発し、仮設住宅集会所でおひな様まつりを開き、本格的に手芸品を販売する意気込みで動き出した。参加者も40人と20人の2グループができ、コミュニケーションをとるいい機会ともなってきた。

また、仙台市圏域では集団移転や農地の復興等で未知数の状態ではあるが、耕作可能などころでは、試験的な場所も含め農作業が始まってきた。みなし仮設住宅（アパートなどに入居）に対する支援を模索しているが、いまだ見通しが立たない状態である。

主な活動は、

- ①株ダイナックス都市環境研究所と本会の活動と県内学校震災対応について会議
- ②若林区六郷・七郷コミネット
- ③山元町坂中跡地仮設支援（おひな様まつり）
- ④山元町坂元仮設支援（レザークラフト）
- ⑤山元町東田仮設支援（毛糸たわし作り）

4月

被災から1年が経過し、被災地では農業関係も復興に向け本格的に動き出し始めた。季節的にも年度替わりのスタートの月でもあり、被災者支援団体も緊急支援活動から自立復興支援へ舵を切る節目の月でもありました。

本会では、中央共同募金会の助成金を活用した事業を継続しつつ「みなし仮設」入居者を対象にした事業をいかに進めていくかで苦慮した。

3.11地震・津波災害を受けた直後から「みやぎ登米市災害ボランティアハブセンター（略称：登米ハブセンター）」と共同で登米市を拠点に三陸海岸地域の被災者支援を展開し、昨年10月から本年3月まで登米ハブセンターが主体的に事業を展開してきたが、今月からは、本会が事業をすべて引き継ぎ「みやぎ登米市災害ボランティアハブセンター」は本会に全面的な協力することとなった。

登米市では、農業支援関係と他団体からの依頼で関係者間の橋渡し役を実施した。

仙台市では、荒浜海岸・深沼海岸の被災者支援活動を支援したり仮設入居者自主運営のサロン活動をこれまで通り支援したりした。山元町の仮設入居者自主運営のサロン活動も同様に支援した。

主な活動は、

- ①登米市迫町、南方町、津山町、中田町農業支援事前調査と農業支援
- ②登米市 女川町復興センターから復興事業に関する相談を受ける
- ③登米市 心思踊りみやぎ支部から心思踊津波被災者無料招待舞踊会に避難所町内会の紹介
- ④県南災害ボランティア会、塩釜市民ボラ〈希望〉、登米ハブセンター中央共募報告書作成相談
- ⑤山元町坂元中跡地仮設・東田仮設手芸教室支援（お地藏さん・たわし作り）
- ⑥J R南小泉仮設・卸町五丁目仮設のパラソル喫茶に協力
- ⑦深沼海岸清掃事業仙台市役所と打合せ
- ⑧六郷・七郷コミネット会議出席（若林区主催）
- ⑨荒浜海岸創生事業に関する深沼自治会との話し合い、被災者支援活動支援
- ⑩深沼海岸環境保全事業研鑽会ボランティア支援、被災者支援活動支援

5月

本格的な被災者自立復興に向け動き出すと支援内容も変化し、他団体もからの依頼で関係者間の橋渡し役も増えてきた。他団体が具体的な支援事業を企画してもその対象者を見出すことが困難なため、被災地域と人間関係が出来ている本会が対象候補と協議して支援事業を実現している。また、その支援内容を検討する会議も増えてきた。

本会が定期的に支援している事業は、今月も継続している。

主な活動は、

- ①東北福祉大学生ボラ活動への支援 南方福祉仮設・志津川入谷福祉仮設施訪問紹介及び調整
- ②登米市南三陸志津川中瀬町農業支援について協議
- ③登米市心思踊りみやぎ支部11月の心思踊津波被災者無料招待舞踊会について協議
- ④登米市「南方仮設住宅復興人形制作はまゆり会」支援について協議
- ⑤登米市石越町 農業支援用事前調査及び農業支援
- ⑥登米市神奈川ネット講演準備（資料写真撮影）及び講演「南三陸半島部を田東山から」
- ⑦登米市神奈川ネット案内をして南方仮設、南三陸志津川、北上、雄勝、女川、石巻を経由し古川へ
- ⑧山元町坂元中跡地仮設・東田仮設手芸教室支援（ホッキ貝お福さん・アクセサリーり）
- ⑨若林区まちづくり推進課と七郷地区復興事業に関する打合せ
- ⑩仙台市・環境事業所と深沼海岸清掃事業打合せ及びに清掃ボランティア活動支援
- ⑪香川県のNGO法人と荒浜創生事業に関する打合せ
- ⑫宮城県共同募金会事業報告書作り
- ⑬県社会福祉協議会復興会議参加
- ⑭深沼海岸復興事業、石巻のNPO支援活動
- ⑮七郷地区復興支援活動について町内会連合会及び市議会議員と打合せ
- ⑯J R南小泉仮設・卸町五丁目仮設のパラソル喫茶に協力
- ⑰若林区社協の会議に出席
- ⑱若林区仮設支援に関する自治会長との打合せ
- ⑲塩釜市民ボラ〈希望〉中央共募会計相談
- ⑳支援事業スタッフ会議（事業打合せ）

6月

本会の定例年次総会を経て、1年の事業がスタートした。災害発生後1年を経過したことで被災者支援復興事業を継続としていくと共に本会の平時の事業も進めていくこととなった。その一つに、被災経験を踏まえ「出来たこと」「出来なかったこと」そして「やらねばならなかったこと」などをまとめていくことが必要。二つに本会の体制を再構築すること。三つに「三者（県、県社協、本会）協定」の実効ある体制を目指すことと本会の対応力の確保が重要との認識になった。

本会が定期的に支援している事業は、今月も継続している。

主な活動は、

- ①登米市 マジシャンソラ公演 南三陸仮設住宅で行いたいとの相談
- ②登米市 マジシャンソラ公演の南三陸南方仮設・横山仮設・入谷福祉・津山若者実施ついて各町内会訪問
- ③登米市米山町にて（南三陸町志津川中瀬町）農業支援
- ④登米市 心思踊りの案内の件で心思踊役員3名と協議
- ⑤登米市 女川復興支援センターを訪問
- ⑥石巻市鹿妻南地区の復興行事支援（フランス大使をご案内）
- ⑦東北福祉大学生ボラ活動への支援（南方福祉仮設スベラーレ・南三陸入谷福祉）
- ⑧山元町坂元中跡地仮設・東田仮設手芸教室支援（ホッキ貝お福さん・アクセサリーり）
- ⑨J R南小泉仮設・卸町五丁目仮設のラソル喫茶に協力
- ⑩荒浜海岸清掃ボランティア活動支援
- ⑪七郷市民センター復興バザーフェスティバル実施支援
- ⑫泉区復興支援事業の手伝い
- ⑬テレビショッピング関係者と荒浜地区経済復興への話合い
- ⑭県社会福祉協議会復興会議参加
- ⑮若林区仮設支援・復興事業に関する打合せ
- ⑯六郷・七郷コミネット会議出席（若林区主催）
- ⑰七郷地区連合町内会長と復興に関する打合せ
- ⑱支援事業スタッフ会議（事業打合せ）



ホッキ貝お福さん

7月

6月末に中央共同募金会の助成金の決定通知を受け、資金不足で事業実施が遅れていたパソコン教室や工作教室の実施を急ぐこととなったが、会場に予定している事務所の冷房設備がないので、7・8月の実施が困難なため、9月実施とし、2ヶ月間の事業実施期間の延長を中央共同募金会に要請することとなった。

本会が定期的に支援している事業は、今月も継続している。

主な活動は、

- ①登米市 東北福祉大支援（南方福祉仮設スベラーレ・南三陸入谷福祉）
- ②登米市 登米中学校訪問 人間の安全保障フォーラムと防災事業推進の連携事業として津山教育委員会、横山公民館、若者体育館、横山仮設と回る。
- ③登米市教育委員会へ防災教育支援を申し入れ、登米中学校と豊里中学校防災支援に関して連絡。
- ④桃生の石巻仮設で子供支援事業を展開することで仮設町内会と合意
- ⑤登米市 女川復興センター 登米市南方災害ボランティア支援要員研修受け入れ依頼
- ⑥登米市 南三陸入谷・南方仮設・にてマジックショーの打合せを行い、入谷山の神福祉仮設でソラのマジックショーを行う。終了後施設と懇談
- ⑦登米市中田支所農政課と東大学生防災事業時の宿泊支援を協議
- ⑧登米市 東大留学生から東日本大震災に関するインタビューをうける
- ⑨登米市 南方仮設住宅にて復興庁委員と意見交換
- ⑩登米市 東大教授と米山鈴根と野出谷地に農業施設見学 被災地援助のあり方の話合い
- ⑪山元町坂元中跡地仮設・東田仮設手芸教室支援（ホッキ貝お福さん・アクセサリーり）
- ⑫深沼海岸清掃ボランティア活動支援
- ⑬七郷市民センター復興バザーフェスティバル実施支援
- ⑭荒浜海岸清掃ボランティア活動支援
- ⑮J R南小泉仮設・五丁目仮設のパラソル喫茶に協力
- ⑯県社会福祉協議会復興会議参加
- ⑰若林区内被災者支援のための話合い
- ⑱支援事業スタッフ会議（見直し事業打合せ）



- ⑱東京・埼玉にて復興支援活動の講演
- ⑳塩釜市民ボラ〈希望〉中央共募申請書作成相談

山元町坂元中跡地仮設・東田仮設手芸教室

8月

主な活動項目に現れているように、被災者自立支援に加え次の災害に備える事業の準備が始動し始めた。非公式ではあるが、県社協担当者との間で大災害に備えた「三者（県、県社協、本会）協定」もほとんど機能しなかったため、その反省とこれからの対応を協議し、相互に協力し合って実効性のある体制づくりを確立することとした。

本会は、災害に関してコーディネーター的役割を持っているので、県内外の各種団体等から被災者支援の紹介・仲介・相談等にも積極的に対応している。県北部は登米市を、県南は仙台市を中心に担当を決め対応している。

本会が定期的に支援している事業は、今月も継続している。

主な活動は、

- ①登米市 神奈川県東村山市高校生ボランティア25人受入
- ②川崎市宮前ネット被災地視察現地事前調査調整、資料作成、視察同行案内
- ③東北福祉大支援（南方福祉仮設スベラーレ・南三陸入谷福祉）
- ④東日本大震災被災地の子供制作「絵画展示会」掲示作業支援（南三陸ホテル観洋）
- ⑤フレンドシップフォースよりホームスティ先を依頼され高校・仮設訪問（ボラ支援）
- ⑥登米市農政部にて災害農業支援事業の情報交換
- ⑦登米市 東京大学教授学生被災地農業現地視察案内
- ⑧登米市 石巻市仮設連合町内会役員情報交換会出席
- ⑨NPO人間の安全保障ホーラム会員東京大学学生13名沿岸部被災地案内、27名と東日本大震災の復興活動に関する情報交換
- ⑩NPO人間の安全保障ホーラム被災地支援事業の仲介活動、気仙沼高等学校、佐沼高等学校、気仙沼市役所防災課、教育委員会訪問
- ⑪登米市南三陸町中瀬町で農業支援・志津川でプロイラーの災害復興事業情報交換
- ⑫仙台市防災フェア参加
- ⑬JR南小泉仮設・五丁目仮設のパラソル喫茶に協力
- ⑭山元町坂元中跡地仮設・東田仮設手芸教室支援（ホッキ貝お福さん・アクセサリーり）
- ⑮若林区下荒井仮設・みなし仮設（若松会）子供落語大会支援
- ⑯パソコン教室等事業内容検討と同講師陣と打合せ
- ⑰県社会福祉協議会復興会議参加
- ⑱県社会福祉課と「県災害ボランティアセンター支援連絡会」協議、同支援連絡会議参加
- ⑲浜松市で植林のシンポジウム参加
- ⑳泉区寺岡連合町内会防災学習（HUG訓練）支援

9月

中央共同募金会助成事業で未着手事業のパソコン教室と子供の工作教室を実施した。一般住宅地に散らばった「みなし仮設」の住人は、被災直後からどこからも支援を受けられず、困難な生活状況乗り越えてきた。同じ地域で被災しても避難所に避難したか、また、家庭の事情でやむなく民間借家に入居したかどうかで、彼らは膨大な量の支援物資の配布をほとんど受けられなかった。行政も地域社会も「指定避難所避難者」「仮設住宅入居者」のみと誤った認識がまかり通って、現在もその影響が強く引きずっている。そのため、「仮設住宅入居者」と「みなし仮設住宅入居者」を一緒にした事業を実施することが困難な状況にある。

パソコン教室と子供の工作教室は、「みなし仮設住宅入居者」対象にして募集し実施（パソコン教室8回、週1回3コース各8名、子供の工作教室3回6名参加）した。期間は共に、9月から11月末。

本会が定期的に支援している事業は、今月も継続している。

主な活動は、

- ①パソコン教室A(入門)コース・B(基礎)コース・C(応用)コース・A(入門補講)日曜日コース開講
- ②登米市 南三陸町歌津「夢未来南三陸地場産品振興協議会」運営支援
- ③登米市 石巻市開成仮設住宅仕事づくり支援協議

パソコン教室



- ④登米市役所にて避難所運営協議
- ⑤登米市 気仙沼市唐桑漁業者支援協議
- ⑥登米市 石巻市桃生仮設にて東日本大震災時の居住地での様子について聞き取り調査
- ⑦登米市 気仙沼市本吉山田大名被災地子供支援協議
- ⑧登米市 石巻市桃生城内仮設・南三陸町志津川中瀬町子供の遊び場、学びの場支援
- ⑨登米市 NPO人間の安全保障ホーラムと今後の活動協議
- ⑩登米市 栗原市高清水まきばフリースクール災害支援協議
- ⑪登米市 石巻市桃生仮設町内会運営会議・南三陸南方仮設町内会活動協議参加
- ⑫登米市 栗原市栗駒・登米市中田町・登米市石越町・大崎市鹿島台・仙台市MDRC 運営支援者と打合せ
- ⑬JR南小泉仮設・五丁目仮設のパラソル喫茶に協力
- ⑭山元町坂元中跡地仮設・東田仮設手芸教室支援(ホッキ貝お福さん・アクセサリーり)
- ⑮浜松市のNPO法人縄文学校と仙台市荒浜と浜松市遠州灘の防潮林の植樹について相互協力体制の確認
- ⑯若林区荒浜海岸 海岸清掃ボランティア活動支援
- ⑰東北福祉大学 減災講座講師「避難所運営」
- ⑱子供の工作教室(電気工作コース)
- ⑲若林区まちづくり協議会メンバーと若林区のまちづくりに関しての懇談
- ⑳東京都小平市の学校関係者に防災に関する講演

10月

「三者(県、県社協、本会)協定」で大災害時に被災者支援活動の被災現場「災害ボランティアセンター」の後方支援組織としての「県災害ボランティアセンター」は、3.11 大災害発生直後から機能しなかった。それは、事前に具体的な訓練や役割分担もなく、希望的目標に過ぎなかったから。

この反省に基づいて、①実効性のある体制づくり、役割分担、②具体的なセンター設置・運営の内容の検討、③現実的(経験済み)な訓練、④市町村社協との合同訓練等を話し合った。本会は、「県災害ボランティアセンター」に人員を派遣し県社協と一緒に運営する旨伝えた。

パソコン教室は各コースとも受講者同士も打ち解け始め、和気あいあいとなり楽しみながら受講している。パソコンに対応する能力に差が現れ、講師・スタッフも負担が大きくなってきた。

主な活動は、

- ①MDRCとの連携活動協議(「まきばフリースクール」「手のひらに太陽の家」「石越」「登米市民活動プラザ」「歌津道の駅」)
- ②パソコン教室は火曜・水曜・日曜コース開講管理
- ③六郷七郷コミネット会議(若林区まちづくり推進課)
- ④南方仮設第1、第2町内会支援協議、心思踊り支援協議
- ⑤元気アップ in 七郷(文科省助成事業)開催打合せ・開催
- ⑥泉寺岡防災セミナー講師
- ⑦仮設町内会及びHFSと南方仮設子供の遊び場運営協議
- ⑧震災流出物150万トンの太平洋北米海岸に与える影響についての環境省・NPO「JEAN」の会議に出席
- ⑨神奈川ネット被災地視察案内
- ⑩子供の工作教室(電気工作コース)
- ⑪石巻市桃生城内仮設子供な遊び場支援
- ⑫南方仮設でHFSと子供の遊び場運営のこれからについて協議
- ⑬山元町坂元中跡地仮設(ホッキ貝人形作り)、東田仮設、西山原仮設

子供の工作教室(電気工作コース)



- ⑭南三陸志津川中瀬町学習支援
- ⑮気仙沼市本吉大名仮設学習支援
- ⑯浜松市にてNPO法人「縄文学校」と遠州灘の防災林植林について打合せ
- ⑰気仙沼市教育委員会、気仙沼高等学校教育支援について協議
- ⑱女川復興センターで活動に関する協議
- ⑲林野庁の防災林・植林に関する説明会に参加(霞ヶ関)
- ⑳三者協定(県、県社協、MDRC) 打合せ会議(県社協)

11月

パソコン教室では、個々人の年賀状作成に挑戦することになり、写真の取り込み、ワードアート、デザインと一気に応用編に入った。受講者それぞれが目標を持ってパソコン操作に興味を持つことによって上達するように方向付けた。その結果、ソフトの組み合わせに戸惑いながらも果敢に挑戦し、それぞれ自分の年賀状を作成することが出来た。8回の受講では、初歩段階なので次のステップにつなげるよう12月は補習期間とすることとした。

子供の工作教室では、学校の行事と重なったり限定した募集だったりしたので、参加希望者が少数なため、2回目の募集をして実施(計10名)した。木工工作は、刃物を使うので「危険」ということか希望者は2名しかいなかったもので、電気工作希望者も含めて実施した。

他団体との協力関係では、震災流出物150万トンの太平洋北米海岸に与える影響についての環境省・NPO「JEAN」の会議に出席し、どのような協力出来るか検討している。

主な活動は、

- ①パソコン教室火曜・木曜・日曜コース開講管理
- ②学習支援及び南三陸南方仮設子供の遊び場運営課題検証会を南方仮設第1第2町内会役員及びHSFと実施
- ③消防大学視察案内場所事前調査
- ④南三陸南方仮設ユリの会支援懇談会
- ⑤消防大学警防科被災地(石巻・南三陸・気仙沼)視察案内
- ⑥子供の工作教室(電気・木工工作コース)開講管理
- ⑦天童市干布公民館対応、南三陸南方仮設第2町内会長と協議
- ⑧七郷中学校 防災マップ作成のために生徒達と町歩き
- ⑨南三陸入谷山の神仮設訪問
- ⑩深沼海岸 清掃ボランティア活動支援
- ⑪気仙沼市前危機管理官と今後の支援策について協議
- ⑫防災林の植林のためのどんぐり拾い
- ⑬3.11大震災海洋流出物に関する会議出席
- ⑭日本舞踊心思踊りみやぎ支部津波被災者支援公演支援
- ⑮北陸ボランティアセンターのスタッフに荒浜地区にて被災状況の説明
- ⑯健康教室
- ⑰南三陸戸倉清水仮設町内会懇談会出席
- ⑱環境合同会社を訪問 支援を受けることで話し合い
- ⑲石巻復興連合町内会支援、河北、北上訪問

健康教室



子供の工作教室(電気工作コース)



子供の工作教室(木工工作コース)

